

令和4年度 後期学校評価

那珂川町立馬頭中学校

教育目標	努 力 点	具 体 策	今年度の評価	反 省 点	来年度に向けた改善点	学校関係者評価・第三者評価でいただいた意見等
思いやりのある生徒	(1) 自己肯定感を高める指導の工夫	① 学級活動、生徒会活動、学校行事等の活性化を図ったか。 ② 互いに認め合える学年・学級経営を行ったか。 ③ 成功体験を積ませる工夫を行ったか。	4 3 3	①新型コロナウイルスの影響で制限はあったが、学校行事を通して学級活動や生徒会活動が活発化した。 ②各学年・学級で工夫をし、教員が生徒を認める、または生徒同士が認め合う雰囲気が高まった。しかし、一部生徒が集団に入れないなどの課題は残った。 ③生徒とのやりとりの中で、個に応じたスモールステップの目標を立て、達成させる経験を積ませる取り組みを行った。しかし、成功の積み重ねによる自己肯定感の高まりについては不十分であった。	①新型コロナウイルスが第5類になることを鑑み、さらに活動の幅が広がるようにする。 ②互いに認め合う具体的な場面を設定し、各学年・学級で定期的実践するようにする。 ③掲示物を活用し、自分の目標達成度合いが視覚的に感じられるように工夫する。	・自分の良さに気づくための取り組みを意図的にして欲しい。 ・感染症対策を徹底して積極的な取り組みを望む。 ・学校行事等が増えて、活動が活発化したことは大いに良かった。来年度も引き続き活発に行って欲しい。 ・自己肯定感を高めることは簡単ではないが教師自ら生徒を認める場面を多く設定して欲しいと思います。集団に入れない生徒を取りこぼしがたいよう、「どうせ自分は・・・」という孤立させない生徒への関わり方ができ、生徒の困り感に気づける教師であって欲しいです。 ・制限が緩和されたことにより学校行事等が活発化されたことで良い評価になっている。生徒達にとってはとても大切なことであり、学校生活が思い出深いものになったのではないかな。 ・互いに認め合うことで自己肯定感の高まりにもつながる。 ・残った課題について今後努力して欲しい。
	(2) 豊かな人間関係を築く指導の充実	① 組織的な生徒指導体制の確立と教員間の情報共有の徹底が図られたか。 ② 個に応じた生徒指導の充実を図ったか。 ③ 規範意識の高揚とルールの徹底を図ったか。	3 4 3	①各学年から生徒指導主事、校長、教頭への情報共有がなされ、組織的な生徒指導が行えた。 ②生徒それぞれが様々な悩みや背景を抱えていることを鑑み、寄り添った生徒指導を行うことができた。 ③生徒心得や社会常識を踏まえた行動を意識させることができた。しかし、他人の気持ちを汲み、言動を制御できていない生徒もいた。	①記録をしっかりと残すことをさらに意識し、細かな情報の共有がしやすいようにする。 ②配慮を要する生徒の情報共有を定期的に行うようにし、様々な背景を踏まえた支援をする。 ③生徒会と連携し、生徒心得の見直しを図る。	・いじめや弱い立場の生徒への配慮を徹底して欲しい。 ・生徒に寄り添うことは互いの思いやりの心を育てる。継続を望む。 ・教員間での情報共有がなされることで、一人一人に寄り添った指導が行えると思う。 ・形を整える指導も大切。心の指導には時間と労力がかかる。 ・あいさつには素晴らしさを感じる。しかし、個によってバラツキがある。 ・あいさつは共同生活の基本。様々な場面できちんとしたあいさつができるようになって欲しい。 ・あいさつが褒められることはとても良いこと。これからも続くよう生徒たちに地域からの褒め言葉をたくさん伝え、ボランティア活動を進んで行えるようにして欲しい。 ・今後社会に出ていく上でとても大切なことなので継続して欲しい。 ・ボランティア活動をボランティアであると意識せずに参加できるようになると良いと思う。
	(3) 道德教育・人権教育の充実	① 全領域での道德教育の明確化と指導の充実を図ったか。 ② あいさつ運動、生徒会活動、ボランティア活動等を通した人権教育の充実を図ったか。 ③ 教育活動全体を通した道德的実践力の育成を行ったか。	3 4 3	①担任以外が道德の授業を行う取り組みを各学年で実践でき、様々な価値観に触れさせることができた。 ②清々しい挨拶の実践を心掛けさせ、挨拶の質が向上した。また、地域貢献活動を通して、多くの人に感謝する気持ちを高めさせることができた。 ③授業、休み時間、部活動等、様々な場面で自他の気持ちを踏まえた行動の実践を啓発することができた。	①学年担当だけでなく、様々な教員が道德の授業を実践するようにする。 ②諸活動を継続する。また、あいさつやボランティアを活動としてではなく、当たり前の行動としてできるようにする。 ③具体的に道德の実践力を試す機会を設定できるとよい。	
進んで学習する生徒	(1) 確かな学力の向上を図る学業指導の充実と授業改善	① 基礎的・基本的内容の確実な定着のため、ICT機器を有効に活用するなど、生徒が主体的に学習に取り組む授業づくりの実践を行ったか。 ② 自分の考えや思いを伝え合うことによりコミュニケーションスキルを向上させ、学びに向かう集団づくりを図ったか。 ③ 学習形態（グループ学習、少人数など）を工夫した学び合える授業の実践を図ったか。 ④ 家庭学習の習慣化を図り、自ら工夫して学ぼうとする態度の育成を図ったか。 ⑤ 数学科を中心とした効果的なTTの研究と実践を図ったか。	3 2 3 3 3	①ICT機器を活用する授業が増えた。一方で、その影響が基礎・基本の定着につながっているかは疑問である。 ②話合いのスキルは依然として、できる子とできない子の差が大きいまである。 ③学び合いの場面は増えた。ただし、効果的な話合いとなっているかは疑問である。話合いの質の向上が必要である。 ④以前と比べて、家庭学習は定着してきた。 ⑤TT実施により、生徒一人一人と関わることができ、質の高い指導が行えた。	①I C T機器の研修を行い、効果的に活用できるように教員が学ぶ場を設定する。 ②帰りの会や学級活動、行事をとおしてコミュニケーションをとる場面を設定する。 ③効果的な話合いができる授業づくり、場面設定に努める。 ④補助のプリントを配布するなど、自主学習が困難な生徒へ支援を行う。 ⑤さらに効果的なTT授業の持ち方を研修する。指導教員の増員する。（授業形態等の工夫）	・全職員の知恵を出し合い、競い合って生徒達の基礎・基本の定着を図って欲しい。 ・家庭学習も大切だが、まず、わかりやすい授業を工夫して欲しい。 ・次世代に向けた教育手法の取り組みは評価できる。将来を見据えて更に前向きに取り組んでもらいたい。 ・学び合いは互いの信頼関係も深めると思います。お互いのさらなる学び合いを高めてもらいたい。 ・コロナの影響も少なくなりつつある世の中なのでコミュニケーションスキルを向上させる場面づくりにこれからも力を入れて欲しい。 ・ICT機器活用が増えることは良いことですが、同時にコミュニケーションスキル向上を目指す授業にも力を入れて欲しい。 ・ICTの活用については改善点にもあるように教員が学ぶ場を増やして欲しい。 ・コミュニケーションを図る事が難しいと感じる生徒もいるかと思う。スキルの向上に向けて指導や学ぶ機会を増やして欲しい。 ・ICT機器の活用による成果が見られないが悪天候であったり登校できないときのリモート授業に活用して欲しい。実社会でもリモート会議等が増えているので、実体験することが今後に生きる。
	(2) 自分の生き方を考える教育の充実	① 各学年の発達段階に応じたキャリアプランニング能力の育成を図ったか。 ② キャリアパスポートの自校化の推進と、その効果的な活用に努めたか。	2 3	①学年ごとの発達段階に応じて、キャリアプランング能力の育成は十分ではない。 ②学期ごと、行事ごとに目標を立て生活に生かすことができた。	①学年に応じて、効果的な体験学習が取り入れられるように計画する。 ②案：キャリアパスポートのデジタル化	・今年度の評価が低い傾向なので課題を洗い出し反省を活かしてもらいたい。 ・教職員間で連携を深めてもらいたい。 ・自主学習に関しては一部のPTAから難しいとの声が聞かれた。 ・TTなどの工夫は良い傾向である。 ・コロナの影響で体験の場も少なくなっていると思うが今後もしっかり取り組んで欲しい。
	(3) 個に応じた指導方法の工夫・改善	① 個人の能力に応じた指導・支援の工夫を行ったか。 ② 教員間の情報交換を行い、連携した指導・支援を行ったか。	3 3	①教科によってはT Tの活用など適切な指導・支援が行われた。 ②教員間の情報交換は密に行われている。一方で低学力層への支援は十分に行えていない。	①段階的な学習プリントの準備や自主学習への支援を行う。 ②教員間の情報交換を継続する。	

教育目標	努 力 点	具 体 策	今年度の 評価	反 省 点	来年度に向けた改善点	学校関係者評価・第三者評価でいただいた意見等
健康で たくま しい生 徒	(1)健康教 育の充実	① 基本的生活習慣の確立に努めたか。	2	・指導に努めたが、個人差が大きい。	・個に応じた適切な関わりを継続し、支援していく。 ・家庭との連携を密に図り、生徒の自己管理能力を高められるようにする。	・小学校の段階でやや肥満傾向の子が多いように思う。小中連携が必要か。 ・得手不得手があるので個人差は致し方ない個も集団も双方の向上を望む。 ・体力の面でも小学校での低下が著しい。中学校で体力向上している生徒が多い。 ・心の健康はヤングケアラー、その他家庭の事情等、学校から支援者につながるようにして欲しい。 ・生徒個人に応じた関わりを今後も大切にして欲しい。 ・何より健康が第一であることは言うまでもないと思います。例えば勉強ができなくとも、風邪等病気をしない、元気にあいさつをする、時間を守るといった生徒が評価されて良い。 ・部活動への取り組みは教員、生徒共に評価できる。朝のトレーニングは方法の見直しが必要かもしれない。 ・何をするにも体力は基本となるものと思います。得意なものは伸ばし、不得意なものは努力させるようにして欲しい。 ・楽しく体を動かして体力の向上を図る工夫を取り入れて欲しい。 ・コロナ禍で体力の低下などが心配されるが制限の緩和にともない、できる活動を増やしていけたら良いと思う。 ・子供たちの登校の姿は大変良いと感じる。 ・良い傾向である。 ・大きな事故もなくよく指導されていると思う。 ・継続して指導をお願いしたい。
		② 心の健康教育の充実を図ったか。	2	・心のアンケートがあまりできなかった。		
		③ 疾病や怪我の予防に努めたか。	4	・コロナの流行があったが、改善策を講じた。		
	(2)体力向 上の推進	① 体育の授業における、個に応じた運動量の確保に努めたか。	3	・説明時間を短くし、活動時間を長くとしたことにより、運動量が確保できた。	・コロナ禍でも、できる活動を継続していく。 ・補強運動を工夫し、積極的に取り入れていく。 ・ニーズに応じた運営をしていく。	
		② 新体力テストの分析と重点指導を行ったか。	3	・分析はできたが、課題である全身持久力、柔軟の重点指導が不十分であった。		
		③ 教科と部活動、部活動同士の連携の強化を図ったか。	4	・部活動同士の連携を取り、部活動での共通理解を図ったり、合同練習を実施したりすることができた。		
		④ 毎朝の体力向上トレーニングの活動強化に努めたか。	2	・冬になると1，2年生の参加率が低くなってしまった。保護者の協力が必要になるため、難しい面もある。		
	(3)安心・安全な学校 づくりの推 進	① 生徒の安全意識を高める日常指導を行ったか。	3	・廊下の歩行に課題が見られる生徒がいた。	・今年度、行ってきたことを継続していく。	
		② 交通ルールの遵守の徹底を行ったか。	4	・安全の日などの様子をみるとルールを守って登下校できている。		

		努 力 点	具 体 策	今年度の 評価	反 省 点	来年度に向けた改善点	学校関係者評価・第三者評価でいただいた意見等
地域とともにある学校運営の推進	(1)創意ある学校運営の推進	①	学校運営協議会の充実を図ったか。	2	地域学校協働本部を通じた地域連携を図ったほか、会議において学校評価を共有したり、「地域と共にある学校経営の推進」について熟議を行った。実施の段階で、バランスを取れるよう配慮に努めてきたように感じる。行事の準備や時間割の変更など、負担が大きいと感じる場面があった。	学校運営協議会で話し合われた意見を具体化していく。 教育課程を編成する段階でよく検討するよう努める。	・学校運営協議会でまだまだ不十分なところが多く、先生方に説明できる状態ではない。もう少し時間が欲しい。 ・まだ数居の高さを感じる。 ・地域のボランティア活動が重要だと思う。又、地域の地域の人からの協力を受けられるようにする ・初年度なので来年はもっと充実できると感じる。 ・まだまだ地域と共にある学校運営の推進入り口だと思う。多くの地域の方に関わってもらえる学校を目指して欲しい。 ・学校だより、学年だより、保健だより等本当によく書かれている。 ・学校→地域、地域→学校の取組がよくされている。 ・地域への情報発信はまだ少ないように感じる。（ホームページの活用・周知） ・学校としてどんなことをやっているか地域の人に映っているのか ・学校からのたよりは学校・生徒の活発な様子が見られてよいと思う。 ・地域貢献活動に力を入れた様子がうかがえ一歩前進したと思います。 ・学習については家庭でも教育には温度差があるのである程度仕方がない部分はあるが、生活習慣（早寝・早起き）については徹底すべき。 ・小学校からの情報のやりとりに中学校生活を送る上で大切なものだと思う。客観的な情報で一人一人に寄り添った指導につなげて欲しい。 ・小中学校の連携は学力、体力、生活面、家族面で大変重要なことと思います。 ・高校を入れることもよいと思う。 ・高校とのやりとりが課題か。前向きな取組を望む。 ・むずかしい家庭環境の生徒が増えていていると感じているので連携に力を入れて欲しい。
		②	調和のとれた教育課程の編成に努めたか。	3			
	(2)家庭・地域と協調・連携した学校運営の推進	①	家庭と連携した生活・学習習慣の定着を図ったか。	2	学年だよりや学年PTAで啓発を図ってきたが、家庭差が大きいと感じた。 総合の時間の講師派遣や、地域貢献活動などで連携して活動できた。マイ・チャレンジでも積極的ににかかわっていただいた。	本人への指導に合わせて、家庭にもさらに協力をお願いする。	
		②	地域学校共同本部を活用した活動の推進を行ったか。	4			
	(3)小中連携教育の推進	①	小学校との連携について共通理解と協力体制の充実を図ったか。	2	入学生徒に関する情報を十分に活用できない面があったと感じる。入学時にもっと個々の情報を共有し、それを新学年に十分に伝えることが必要。 アンケート調査の協力や、学校見学を行えた。しかし、協力体制の確立とまではいかなかったので、今後さらに検討が必要。	年度当初に、生徒理解の時間を職員会議もしくは学年会議で設定しておくなどする。不明な点を、小学校に確認するなどできるとよい。 協力体制の確立について、具体的な目標があると、活動しやすい。	
			②	地元高等学校の理解と協力体制の確立を図ったか。			